

生成 AI を活用した広報さがみはらの質的向上と購読促進に関する提言

相模原市役所 広報さがみはら 担当者 様

はじめに

近年、生成 AI 技術の急速な発展は、広報活動にも大きな変革をもたらしています。本提言は、生成 AI を積極的に活用することで、広報さがみはらの質的向上と購読促進を実現するための具体的な施策を提案するものです。

現状分析

相模原市は、広報誌の発行、ウェブサイトでの情報公開、SNS の活用など、多岐にわたる広報活動を行っています。しかし、市民へのアンケート調査結果や Web アクセス数の分析から、以下の課題が明らかになりました。

- **課題 1:** 入れ込むべき内容が多く、自分に必要な内容が見つけれない読者や、情報量に圧倒され関心持てない読者がいるようです。
- **課題 2:** 自治体広報の役割と、その結果から、あり方に関する分析や将来への展望が曖昧なようです。
- **課題 3:** 広報誌の認知度が低く、存在自体を知らなかったり、手に取る機会が少ないようです。

提言

これらの課題を解決するため、以下の施策を提案します。

- 1. 生成 AI による紙面作成の効率化と質の向上:**
 - 記事作成、構成、校正、イメージ作成などを生成 AI に支援させ、業務効率化とコンテンツの質向上を図る。
 - 生成 AI を活用した新しい企画や切り口の記事を掲載し、読者の興味を引く。
- 2. ターゲット読者層に合わせた情報発信:**
 - しゃくし定規にならず、ターゲット読者の現状とニーズに合わせ、マルチチャネル化を図り、大胆なニーズにマッチする情報提供を図る。
 - 若年層向け、子育て世代向け、高齢者向け、だけでなく、個々の多様なニーズを図り、それに対応する仕組みを作る
- 3. 双方向コミュニケーションの充実:**

- 読者アンケートや意見交換会を継続的に実施し、読者の声を積極的に収集し、新しい発想や購読喚起のための取組を洗い出しする。
- 市民レポーター制度を拡充し、記事のみならず紙面そのもののあり方についても含め、市民が主体的に情報発信できる場を設ける。

4. 広報誌の認知度向上:

- 市内イベントや公共施設での配布、ポスティングなど、配布方法を多様化する。
- 広報誌の WebPR を充実させ、スマートフォン等の新しい媒体での閲覧性を高める。
- SNS での効果的な情報発信を強化し、認知度を高める。

5. 効果測定と改善:

- 読者アンケートや Web アクセス数などを定期的に分析し、効果測定を行う。
- 効果測定の結果を踏まえ、改善策を検討し、継続的に広報活動を改善する。

KPI ※KPI (重要業績評価指標)

- 広報誌の Web 版アクセス数: 前年比 120%
- 広報誌に関する市民アンケートの満足度: 70%以上
- 広報誌の認知度: 80%以上

予算と人員

本提言の実現には、生成 AI の導入費、職員研修棟含めた人材育成費、広報活動費などが必要となります。具体的な予算と人員については、別途詳細な計画を策定する必要があります。

おわりに

生成 AI の活用は、広報さがみはらの質的向上と購読促進に大きく貢献すると考えられます。本提言を参考に、相模原市がより魅力的な広報活動を実現できることを期待しています。

生成 AI を活用した広報さがみはらの質的向上と購読促進に関する提言

相模原市役所 広報さがみはら 担当者 さま

【経過】

昨年 10 月、本市が、日本電気株式会社と協定を締結し、生成 AI の活用に向けた共同検証を開始しました。生成 AI の技術進歩は目覚ましく、市民の間でも広がっています。今回、一市民の立場から、生成 AI を用いて広報さがみはらの質的向上と購読数の増加を図る取り組みについて、提言をまとめました。

【期間】

令和 6 年 7 月 1 日（月）～7 月 8 日（月）

【内容】

3 種類の生成 AI（ChatGPT、Gemini、Claude）を使用し、以下の内容をプロンプトとして投げかけ、回答を元に取りまとめを行いました。

●プロンプトの内容

1. 現在の相模原市の取り組みの評価
2. 自治体広報の PR に関する問いかけ
 - 読んでもらうためには
 - 手に取ってもらうためには
 - 広めてもらうためには
3. 具体的な取組の詳細
 - キャッチフレーズの作成
 - Twitter（X）への投稿文作成
 - YouTube 動画シナリオ作成・配信
 - PR キャラクター作成
 - ポスター・チラシ作成
 - 内容充実とキャッチーな紙面作り、広範囲な読者獲得計画と購読継続具の具体的な企画案作成

●生成 AI への学習内容

- 広報さがみはらホームページ
- 広報さがみはら PDF 版
- 過去の相模原市議会における「広報さがみはら」に関する議論
- 一般的な自治体広報の先進事例

【結果】

生成 AI を活用した広報さがみはらの質向上と発行業務効率向上、及び購読喚起に果たす効果は非常に大きく、有効性が認められました。広報活動の継続的な改善が重要です。

【主な改善点】

1. 効果測定の実施

- 読者満足度と読者獲得のためのインパクト、多様なツールの活用について、施策の検証を継続的に実施し、公開する。

2. ターゲティングの明確化

- 各紙面におけるターゲット（想定読者層）を明確にする。

3. エンゲージメントの充実

- 双方向コミュニケーションの充実。例：読者参加企画の充実、意見交換会の実施、Webとの連動。

4. アクセシビリティとマルチチャネルの強化

- 読者視点での読みやすく手に取りやすい媒体選択と、多様な市民への配慮。

5. アナログ対応の強化

- まちづくり会議での広報さがみはらの PR、市長等による読後の意見公開など、アナログな対応の強化。

【提言】

1. 新しい技術の情報を迅速に収集し、業務改善や市民サービス向上に役立つものを迅速に取り込む仕組みと体制を構築する。
2. 他市との情報交換を行い、切磋琢磨する。
3. 施策のコストと効果の実績を突合せし、次の施策展開へフィードバックを行う。
4. 継続的・長期的に広報さがみはらの質を高め、購読を増やしていく。
5. 生成 AI の利活用
 - 記事作成、構成、校正、イメージ作成、紙面案試作、紙面評価、新しい発想出しなどに積極的に活用する。
6. SNS への生成 AI 活用
 - 記事 PR に係る投稿文の自動作成などに活用する。
7. 動画作成等
 - 広報さがみはらを題材にした動画作成、出前授業の実施、相模原に関する豆知識やクイズの提供。
8. 市民参加
 - 市民レポーター制度を拡充し、新しい発想の取り入れや紙面評価、講読会を実施する。
9. コンクール受賞を目指す
 - 読者満足度や購読者数の定性・定量評価を継続的に行い、日本広報協会主催の広報コンクールへの入賞を目指す。

【その他】

生成 AI を用いた取り組みは日々進化しており、現在も様々な取り組みが実施されています。この提言に固執せず、技術や市民の声を的確に見極め、今後も取り組みを進めてください。

以上

提出者：阿部善博

生成 AI を活用した広報さがみはらの質的向上と購読促進に関する提言

相模原市役所 広報さがみはら 担当者 さま

【経過】

昨年 10 月、本市が、国産生成 A I の活用に向け、日本電気株式会社と協定を締結し、共同検証を開始した。生成 A I の技術的進歩は想像を絶するスピードで進んでおり、様々な生成 A I の利活用が市民の間にも広がっている。今回、一市民の立場から、誰もが利用できる生成 A I の技術を用いて、市役所業務の効率化や市民サービスの質的向上を図るためには、どのようなことが出来るか、その企画段階から生成 A I を利用し、社会実験を行った。

その一つに、生成 A I を活用し広報さがみはらの質的向上と購読数の増加を図る取組について、提言としてとりまとめた。

【期間】

令和 6 年 7 月 1 日（月）～ 7 月 8 日（月）

【内容】

3 種類の生成 A I（ChatGPT、Gemini、Claude）を使用し、下記の内容のプロンプトを投げかけ、回答を元に、取りまとめを行う。

初めに、広報さがみはらに関する資料等を生成 A I に読み込ませ学習を行った。

次に、広報さがみはらのあり方や役割について対話を行い、基本的な意義等を確認した。

こうした経過の後、次の内容のプロンプトを投げかけ、回答を元に具体的な実践を行った。

●プロンプトの内容

1、現在の相模原市の取組の評価

2、(一般的な)自治体広報の P R に関する問いかけ

- ・読んでもらうためには
- ・手に取ってもらうためには
- ・広めてもらうためには

3、具体的な取組の詳細について

- ・キャッチフレーズの作成
- ・Twitter (X) への投稿文作成
- ・YouTube 動画シナリオ作成、動画作成・配信
- ・P R キャラクター作成
- ・ポスター・チラシ作製
- ・内容充実とキャッチーで魅力的な紙面作り、広範囲な読者獲得計画と購読継続具に

向け、具体的な企画案作成

●生成 A I への学習内容

- ・広報さがみはらホームページ
- ・広報さがみはら PDF 版
- ・過去の相模原市議会における「広報さがみはら」に関する議論
- ・一般的な自治体広報の先進事例 ※対話による検索と深掘りのやり取りによる

【結果】

生成 A I を活用した、広報さがみはらの質的向上と発行業務効率向上、及び購読喚起に果たす効果は非常に大きく有効性が認められると判断しました。

相模原市は、広報さがみはらをより多くの市民に届け、読んでもらうために、多岐にわたる取り組みを行っており、その努力は高く評価できます。改善点も存在しますので、そもそもの根本的な取り組み姿勢をよく見直し、細かい改善点を踏まえ、より効果的な広報活動を目指して継続的に取り組んでいくことが重要と考えます。

【主な改善点】

・『効果測定・検証の実施』紙面向上による読者満足度と読者獲得のためのインパクト、多様なツール等の活用について、様々に実施している施策の検証を継続的に実施と公開。例) 目標の数値化と定量的な判断。

・『ターゲティング』各紙面におけるターゲット（想定読者層）の明確化。

・『エンゲージメント』双方向コミュニケーションの充実。例) 読者参加企画の充実。意見交換会の実施。W e b との連動。市民読者。講読会。

・『アクセシビリティとマルチチャンネル』読者視点の読みやすく手に取りやすい媒体の選択と多様な市民への配慮。

・『アナログ対応』アナログな対応も依然有効性を持っています。まちづくり会議へ広報さがみはら最新号をもって行き P R する。S N S で広報さがみはらの P R 画像や動画を活用する。市長等身近な人物に読んでもらい、その様子を公開し、意見等をフィードバックする等のアナログな対応も要検討。

【提言】

・生成A Iをはじめとする新しい技術の情報をいち早く収集し見極め、業務改善や市民サービス向上に有効と判断できるものは迅速に取り込める仕組みと体制を構築する。

・他市の取組に注意を払い、良き仲間として情報交換を行い切磋琢磨に務める。

・個々の取組施策においては、施策実施に係る労力を含めたコストと効果の予測による判断と、実施した施策全てのコスト・効果の実績の突合せを行い、次の施策展開へフィードバックを行う。

・一時的なキャンペーン等も有効ではあるが、継続的・長期的に広報さがみはらの質を高め、購読を増やしていけるよう取り組む。

●具体的な取組例は次の通りです。

・『生成A Iによる紙面作成』記事作成、構成、記事チェック（校正）、イメージ作成・紙面案試作等の利活用のほか、紙面評価、新しい発想出し等に積極的に利活用する。

・『SNSへの生成A I活用』特に、生成A IはSNSと相性が良い。記事PRに係る投稿文の自動作成等に生成A Iを活用されたい。

・『動画作成等』広報さがみはらを題材にした動画作成、出前授業の実施。相模原に関する豆知識やクイズ。

・『市民参加』市民レポーター制度を拡充し、記事投稿だけでなく、新しい発想の取入れや、紙面評価、講読会を実施。

・『コンクール受賞を目指す』コンクール受賞等の目標設定。読者満足度や購読者数の定性・定量評価は継続的に行う必要があるが、本市HPが受賞した日本広報協会主催の広報コンクールへの入賞を目指すために、生成A Iを活用し、より良い紙面とは何か、良い取り組みはどのような考えや姿勢が求められるのか、等の分析と実践を行う。

【その他】

生成A Iを用いた取組は、日々変化と進歩をともなっていて、現在も様々な取組について実施しているところである。この提言にこだわることなく、様々な技術や市民の声を的確、迅速に見極め、今後も取組を進めてもらいたい。

以上

提出者：阿部善博